

水島製油所における石油コークス発電設備の新設について

記者各位

当社(社長:杉森 務)は、水島製油所(所長:大高 禎夫)において、石油コークス※¹を燃料とするボイラ発電設備を新設しますので、お知らせいたします。

これまで、水島製油所内で使用する電力については、重油とオフガス※²を燃料とする自家発電設備と一般電気事業者からの購入により調達しておりましたが、同製油所で製造している石油コークスを燃料とするボイラ発電設備を新設することで、燃料コストの低減を図り、さらに余剰となる電力については、新電力(PPS)※³ 事業用として販売いたします。

これにより、当社の中核製油所である水島製油所の一層の競争力向上を図るとともに、第2次中期経営計画の基本戦略の一つであるエネルギー変換企業としての事業拡大を目指してまいります。

※¹ 石油精製の過程で生成する重質油を分解した残渣で、主成分は炭素。主にボイラ等の燃料として使用。

※² 精製装置から発生する副生ガス(メタン・エタン等の混合ガス)。

※³ 一般電気事業者が所有する電線網を通じ、契約電力が原則50kW以上(小売自由化部門)の需要家に対し電力供給を行う事業者(PPS: Power Producer and Supplier)。

記

1. 新設予定地 当社水島製油所B工場
2. 新設設備概要 ①コークスボイラ : 蒸発量 530トン/時
②タービン発電設備 : 発電能力 110,000kW
3. 運転開始時期 2018年4月(予定)

以上

● 別添資料

 [【装置フロー概要図】](#) (PDF:217.6 KB)